大阪大学21世紀懐徳堂
活動報告書2024

大阪大学

21 懐
徳 堂

目次

21世紀懐徳堂とは P.02

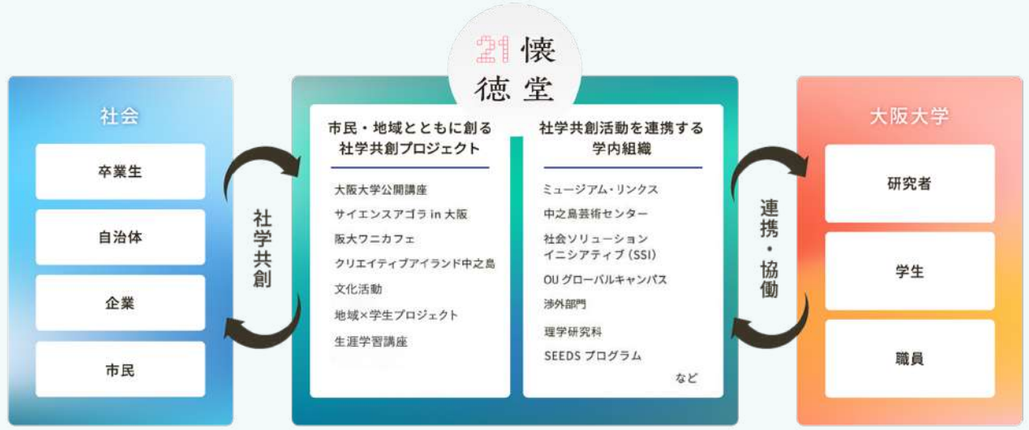
社学共創プロジェクト
- 大阪大学公開講座 P.03
- 大阪大学公開講座　参加者アンケート P.04
- クリエイティブアイランド中之島 P.05
- サイエンスアゴラ in 大阪 クリエイティブアイランド中之島、JSTサイエンスアゴラ、中之島バビリオンフェスティバル2025共同企画 P.06
- サイエンスアゴラ in 大阪　参加者アンケート P.07
- ラボカフェ・スペシャル@大阪大学中之島センター クリエイティブアイランド中之島、中之島バビリオンフェスティバル2025共同企画 P.08
- 阪大ワニカフェ P.09
- 生涯学習講座（箕面市立船場生涯学習センター） P.10
- 文化活動（ハンダイラジオ/阪大万博/まちっと北摂） P.11
- 地域×学生プロジェクト P.12

社学共創を支える取り組み
- リブランディング P.13
- デジタルマーケティング P.14
- 広報実績 P.15
- アウトリーチ活動支援 P.16
- 21世紀懐徳堂スタジオの利用状況 P.17

21世紀懐徳堂とは

大阪大学の精神的源流は2つあります。ひとつが緒方洪庵の「適塾」であり、もうひとつが、大坂の商人たちが身分の枠を超えて学問を通じ自己研鑽することをめざして1724年に創設した学問所である「懐徳堂」です。「21世紀懐徳堂」は、懐徳堂の志を受け継ぎ、市民と共に学ぶ場、知のネットワークの拠点となるべく2008年に創設されました。

大阪大学(OU)は、教育研究活動の成果を大学から社会に還元するとともに、社会と共に考える中で新たな課題を発見し教育研究の場に持ち帰り、さらなる社会の発展に貢献する成果を生み出すことをめざしています。この循環の輪である「OUエコシステム」の一翼を担うべく、21世紀懐徳堂は、本学の教育研究活動の成果を社会へ伝えるアウトリーチ活動を基盤とし、社会の中で市民と共に考える社学共創の営みを通じて生きがいを育む社会を創っていきます。



○吹田キャンパス

SSIや渉外部門等と連携している。

○豊中キャンパス

21世紀懐徳堂スタジオのある
豊中キャンパス

○箕面キャンパス

外国学研究講義棟（写真左）に
隣接する複合施設（写真右）では、
生涯学習講座を行っている。

○中之島センター

中之島センターでは
大阪大学公開講座等を開催

● 大阪大学公開講座

【活動概要】 1968年に「開放講座」と称してスタートした「大阪大学公開講座」は、コロナ禍の時期にはウェブ開催のみとしたり、年間回数も3回に絞ったり、苦しい時期も乗り越えてきた。第54回では9講義まで復活させ、第55回ではリニューアル工事を終えた中之島センターに会場を戻すことができた。講義の内容はもとより、10階「佐治敬三メモリアルホール」からの美しい夜景も楽しんでいただけている。 2024年の第56回では、高校生以下を無料にしたこともあって、全国から若者がウェブ参加するようになった。

【開催概要】

対　　象 ： 一般・学生／高校生以下
定　　員 ： 各回130名
開 催 日 ： 2024年10月1日(火)・10月8日(火)・10月17日(木)・10月25日(金)・11月5日(火)・11月13日(水)・11月19日(火)・12月1日(日)・12月14日(土)
会　　場 ： 大阪大学中之島センター 10階
佐治敬三メモリアルホール
大阪大学箕面キャンパス 1階 記念ホール
※後日オンデマンド配信あり
受講者数 ： 延べ969名（対面392名・オンライン577名）

第56回受講者募集チラシ表紙

【成果】

毎回、幅広い分野の講義にも通じる共通タイトルをつけていて、第56回は「懐徳堂から三百年　知のネットワークを育む共創と対話」とした。大阪大学の精神的源流の一つである「懐徳堂」が1724年、大坂商人の手によって設立されてちょうど300年の年となったことから、その向学の精神を引き継ぎながら知の共創を目指していただこう、と展開した。

受講料を無料にした高校生以下は、ウェブを中心に北海道から沖縄まで、全国から視聴してくれて、全参加者の９％にのぼった。９回のうち大半で会場参加してくれた親子の姿も見られ、また昆虫がテーマの回では男子小学生が会場から質問も出してくれた。

【課題】

今回はパンフレットの表紙を「懐徳堂六賢人を中心としたイラスト」という凝ったものにしたことや、入試課の協力を得て全国の高校でパンフレット配布したこともあり、さらに前年に比べて聴講者が微減したことも影響し、収支がマイナスになった。2025年度はさらに参加者を増やして、黒字転換することが最重要課題。高校や不特定場所で配布する物は簡易チラシにするなどの工夫を凝らして、この目標を達成する。好評だったイラストは、今後もパンフレットなどで活用していく。

講座をオンデマンドで再編集したデータを再度「第２期講座」に流用して、視聴の機会を増やしながら収益増にもつなげていきたい。

大阪・関西万博への出展などを紹介した石黒浩教授

第9回には竪琴を用いた講義を開催した

● 大阪大学公開講座　参加者アンケート

【調査概要】 2024年10月1日～12月14日に21世紀懐徳堂が実施した第56回大阪大学公開講座全9回の受講者を対象にアンケート調査を実施した。当日は会場にてアンケート用紙を配布し、講義終了後に回収した。また、ウェブ上にアンケートフォームを設置し、アーカイブ動画の視聴期間終了時まで入力を受け付けた。受講者延べ969名のうち426名から回答を得た。アンケート回収率は約44％であった。

【アンケート結果の一部】

・「本日のプログラムをどのようにしてお知りになりましたか」という質問では、21世紀懐徳堂のメールマガジンから開催情報を得た人が最も多く(73人)、ウェブサイト(63人)、チラシ(49人)の回答が続いた(表1)。今回から高校生向けに本学入試課から情報発信を開始し、それが参加(18人)につながったことも明らかになった。
・「本日のプログラムを受講した理由は何ですか」という質問では、「講座のテーマ」「プログラムの内容」「教養を高めること」に対する、参加者の意欲の高さが明らかになった(表2)。
・「本日のプログラムで特に良かった点について教えてください」という質問に対する選択肢のうち、「最先端の研究について学べた」との回答が57人と過半数を占めた(表3)。
・プログラムに対する満足度（図1）と理解度（図2）の高さから、受講した方々のニーズにフィットした講座内容になっていることが確かめられた。

表1　開催情報を得た媒体について

媒体の種類	（人）
①チラシ	49
②ウェブサイト	63
③SNS	16
④21 世紀懐徳堂メルマガ	73
⑤大阪大学卒業生メルマガ	1
⑥大阪大学入試課メール	18
⑦Peatix メール	33
⑧知人からの紹介	35
⑨講師・スタッフからの紹介	6
⑩自治体の広報・掲示	9
⑪インターネット広告	21
⑫その他	15

表2　受講の動機について

受講した理由	（人）
①テーマ「懐徳堂から三百年 - 知のネットワークを育む共創と対話」に関心があったから	93
②本日のプログラム内容に関心があったから	220
③本日のゲストに関心があったから	59
④大阪大学のプログラムに参加したかったから	74
⑤教養を高めたいから	151
⑥仕事に役立つと思われたから	30
⑦日常生活に役立つと思われたから	51
⑧余暇を有効に利用したかったから	32
⑨大阪大学の中之島センターを訪れてみたかったから	26

表 3　プログラムでよかった点について

回答項目の種類	（人）
①「懐徳堂から三百年 - 知のネットワークを育む共創と対話」というテーマについて考えを深めることができた	11
②最先端の研究について学べた	57
③大学の研究者と対話ができた	4
④大学の講義の雰囲気を味わえた	10
⑤大阪大学について知ることができた	2
⑥身の周りの社会課題に来る解決のヒントが得られた	16

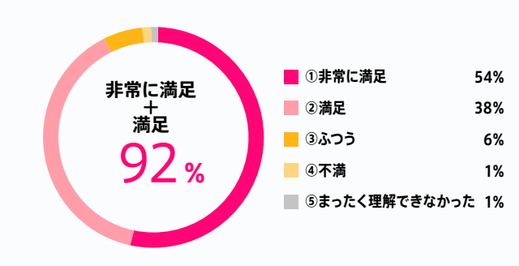


図1　プログラムの満足度

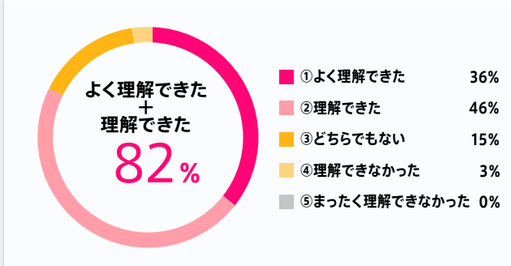


図2　プログラムの理解度

● クリエイティブアイランド中之島

【企画趣旨・実施内容】水都大阪を象徴する中之島は、多様な文化施設が集積し、歴史的建造物や高層ビル、水辺環境や公園などが共存し、パリのシテ島、ベルリンのムゼウムスインゼルに類する世界的な都市空間である。「クリエイティブアイランド中之島」は、文化施設、企業、大学等13の参加機関による国内最大規模の創造ネットワークとして2019年度に組織し、定期的に議論を重ね、中長期的な将来ビジョンに基づき、2020年度より事業を始動している。本共創事業では、中之島全体をユニークベニュー「創造的な実験島」として、多様な物事の創出や都市格の向上に資する活動を展開している。

【クリエイティブアイランド中之島実行委員会 構成団体】実行委員長 西尾章治郎(大阪大学 総長)

大阪府立国際会議場、大阪市中央公会堂、大阪市立科学館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪大学、京阪ホールディングス（アートエリア B1）、大阪中之島美術館、graf、国立国際美術館、こども本の森 中之島、中之島香雪美術館、中之島まちみらい協議会、フェスティバルホール
詳細はウェブサイトを参照　※https://nakanoshimalab.jp/

【沿革】

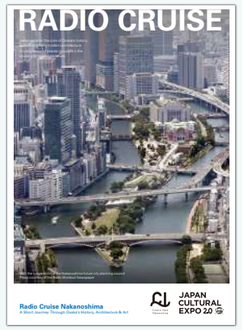
・2018 年～　アートエリア B1（大阪大学 / 京阪ホールディングス / ダンスボックス）が、文化庁戦略的芸術文化創造推進事業。「クリエイティブ・アイランド・ラボ 中之島」として、中之島を拠点とする文化施設と連携したツアーやトークなどを実施。
・2019 年～　中之島に拠点をおく 12 の組織がクリエイティブアイランド中之島実行委員会設立。プロジェクトチームを設置。
・2020 年～　大阪市中央公会堂、こども本の森 中之島が開館を迎え、14 機関が参画。文化庁戦略的芸術文化創造推進事業に採択され、2022 年度までの3年間事業を推進。ウェブサイトを開設し、コロナ禍はオンライン企画等を開始。
・2023 年～　関西・大阪万博を契機にシンボル事業「中之島パビリオンフェスティバル」を構想。
・2024 年～　令和 6 年度日本博 2.0 事業（委託型）に採択され「中之島パビリオンフェスティバル 2025」に向けた事業を展開。

【2024年度の主な活動概要】

・月1回程度の企画チーム会議、年1回の実行委員会（総会）、その他、各種ワーキング等を開催
・「日本博 2.0 を契機とする文化資源コンテンツ創成事業「最高峰の文化資源の磨き上げによる満足度向上事業（委託型）」」採択
・既存コンテンツの特別メニュー開発とファムトリップ企画の試行→ナイトミュージアム、クルーズ企画を造成
・世界的アーティストのレジデンスによるオリジナルコンテンツ開発→岡田利規氏「中之島 15 の場所での物語」創作
・学際的インバウンド対応の強化拡充のための環境整備等→海外メディア招聘による特集記事掲載。サイトリニューアル等
・コア期間（11 月）の企画実施

2024年度コア期間チラシ

ナイトミュージアムツアーの様子



RADIO CRUISE 中之島
-歴史・建築・アートをめぐる小旅行-

【成果と課題】

・2024年度は「日本博2.0を契機とする文化資源コンテンツ創成事業」に採択され、シンボル事業「中之島パビリオンフェスティバル2025～水都大阪の学術芸術の祭典～」に向けたコンテンツ開発と世界発信プロジェクトとして、「クリエイティブアイランド中之島」の磨き上げによる学際的インバウンド事業を展開した。
・中之島プロモーション・クリエイティブコンテンツでは、岡田利規氏による「中之島15の場所での物語」が創作され、ミーティングポイント（サインスタンド）に配架している。本作は、日本で最も歴史ある文芸誌『新潮』に全文掲載され、新世代の中之島物語の誕生が外部評価（専門誌掲載）される形で全国発信が成し遂げられた。
・クリエイティブアイランド中之島の広報力を高める方策の1つには、ウェブサイトの閲覧数を上げるためにも、各館のイベント情報をクリエイティブアイランド中之島ウェブサイトへの掲載作業が不可欠であるためサイトリニューアルを実施。

● サイエンスアゴラ in 大阪

クリエイティブアイランド中之島、JSTサイエンスアゴラ、中之島パビリオンフェスティバル2025共同企画 ラウンドテーブル「Playable Island―中之島で実装する創造的なアイディアの提案」

【活動概要】サイエンスアゴラは、科学技術振興機構（JST）が主催するあらゆる人に開かれた科学と社会をつなぐ広場の総称。本学では、2018年度に都市防災をテーマに初回開催された。さらに大阪・関西万博に向け、多様な価値観が交錯するラウンドテーブルとして、2021年度から中之島を舞台に開催している。2024年度は、オール中之島体制で取組むシンボル事業「中之島パビリオンフェスティバル2025」プレイベントと連動し、複数の機関による共同企画として実施。テーマを「Playable Island―中之島で実装する創造的なアイディアの提案」に設定し、未来を志向する若い世代を対象にしたワークショップのためのリサーチクルージングとグループワーク、発表の講評とクロストークの二部構成で実施した。

【開催概要】
◆開催日：2024 年 11 月 24 日（日）11:30～17:00
◆場所：大阪中之島美術館1階ホール　◆参加者数：第1部 60 名、第2部 130 名

【参加者の所属機関（抜粋一覧）】
大阪大学、筑波大学、関西学院大学、大阪公立大学、追手門学院大学、同志社大学、立正大学、日本科学振興協会、朝日新聞社、朝日放送、大阪国際会議場、関西電力、京阪 HD、ダイビル、竹中工務店、ロイヤルホテル、graf、アートエリア B1 、地域計画建築研究所（アルパック）、STUDIO_C、ノットコーポレーション、NTT 西日本、ひろば、かんこう、大阪水都安全情報センター、三井不動産、UMF 、ROUGHLABO 、ロート製薬、公縁クロス機構、アーバンリサーチ、ロフトワーク、Halle Game Lab、コミュニティ・バンク京信、横浜市医療局、ゆずプラス、BLUE Symphony

【プログラム概要】
第1部　11:30～12:30　・中之島エリアをクルージングしワークショップのための事前共有リサーチを実施
※参加者限定　・中之島文化施設および公共空間・公開空地についての説明
・グループワークショップ（企業等の若手20-40代の参加者60名）
第2部　15:00～17:00　・主催者挨拶　西尾 章治郎（大阪大学総長、中之島パビリオンフェスティバル2025/クリエイティブアイランド中之島実行委員長）
※一般公開　・各グループによる発表、登壇者による講評、クロストーク
登壇者　菅谷 富夫（大阪中之島美術館 館長）、
堀越 礼子（朝日新聞社 取締役 西日本統括／大阪本社代表兼文化事業エグゼクティブプロデューサー）
総合司会：木ノ下智恵子（大阪大学准教授、中之島パビリオンフェスティバル 2025 メンバー、クリエイティブアイランド中之島事務長）

第一部ワークショップの様子

21 世紀懐徳堂ウェブサイトではダイジェストアーカイブ映像を公開している

【成果と課題】

・ 大阪・関西万博においては、次代を担う若者たちの活動がソフト・レガシーとなることが期待されている。こうしたムーブメントを起こすためには、学生や企業の若手など、次代を担う人々が積極的に参加・主導することが重要である。20-40 代のオフィスワーカーやクリエイター、学生などの参加者は 60 名におよび、企業、教育機関等 40 を超える組織から多様な若者が集い、今後の展開に資する結節点としての機能を果たしている。加えてグループ発表によるアイディアの披露、ゲストによる講評とクロストークに関する一般参加の満足度も高いというアンケート結果がある。
・ ラウンドテーブルでは、複数機関による共同企画、ワークショップ（若手参加者）を核とした企画構成、グラフィックレコーディングやアーカイブ映像等々、これまでとは異なる様々な方策を採用している。
・ 中之島パビリオンフェスティバル 2025 での実現だけでなく、将来の地域や街の変化につながる対話の場の創出という点で、本プログラムの企図が実現し、その効果・成果が得られたと言える。

【中之島パビリオンフェスティバル2025 実行委員会について】
「中之島ブランドを世界で確立」させるため、「世界水準の既存文化施設」をパビリオンと見立て、公園水辺、公開空地と一体となって、「オール中之島で取り組む共創コンテンツ」をそこへ集中し、中之島の魅力を一度に体験できる機会を創出、発信する事業体で、次の11社学館で構成される団体。
【構成団体※50音順】 朝日新聞社、朝日放送グループホールディングス、大阪府立国際会議場、大阪大学、大阪中之島美術館、関西電力、京阪ホールディングス、国立国際美術館、ダイビル、竹中工務店、ロイヤルホテル
詳細はウェブサイトを参照　※https://nakanoshima-pf.jp/

● サイエンスアゴラ in 大阪　参加者アンケート

【調査概要】2024年11月24日に21世紀懐徳堂が実施したサイエンスアゴラin大阪「Playable Island―中之島で実装する創造的なアイディアの提案」の参加者を対象にアンケート調査を実施した。当日は会場にてアンケート用紙を配布し、プログラム終了後に回収した。また、ウェブ上にアンケートフォームを設置し、オンライン回答も受け付けた。参加者延べ130名のうち56名から回答を得た。アンケート回収率は43%であった。

【アンケート結果分析の一部】

・「本日のプログラムをどのようにしてお知りになりましたか」という質問に対し、「関係機関からの案内」(27人)と「口コミ」(18人)と回答した人が多かった(表1)。今回は大阪・中之島の利活用へ向けてアイディアを提案するというプログラム内容であったため、中之島に関わりのある参加者が多くなったことが考えられる。

・「本日のプログラムに参加した理由は何ですか」という質問では、関係者からの声かけによって参加した人(30人)、中之島エリアに関心がある人(25人)の人数が多く、この結果も、プログラム内容と参加理由との関連を示しているといえる(表2)。

・プログラムの満足度（図1）については、「非常に満足」「満足」合わせて86%という結果が得られた。

・過去に大阪大学のプログラムに参加したことがある人の割合は54%と過半数を超えたが(図2)、「サイエンスアゴラin大阪」への参加については20%であった(図3)。

・「今回のプログラムで印象に残ったこと」に関する自由記述のなかで、「ワークショップで自由に話せて有意義だった」「いろんな方とディスカッションして中之島に関係する人口を増やすこと自体に価値がある気がした」との回答が見られ、ワークショップという実施形態に対する参加者からのプラス評価が伺えた。また、「プログラムを通して、これまで考えてなかった中之島の側面にふれ、興味深いイベントでした」「中之島がさらに歴史的あるいは地域性を生かした活性化を進めようという企画は有意義だと感じた」というように、参加者の中之島エリアへの関心の高さが伺えた。

表1　開催情報の入手経路

媒体の種類	（人）
①チラシ	6
②ウェブサイト	3
③SNS	1
④関係機関からの案内	27
⑤口コミ	18
⑥その他	2

表2　参加理由について

回答項目	（人）
①本日のラウンドテーブルテーマ「Playable Island-中之島で実装する創造的なアイディアの提案」に関心があったから	20
②中島エリアに関心があったから	25
③仕事に役立つと思われたから	11
④本日の登壇者に関心があったから	9
⑤関係者に誘われたから	30

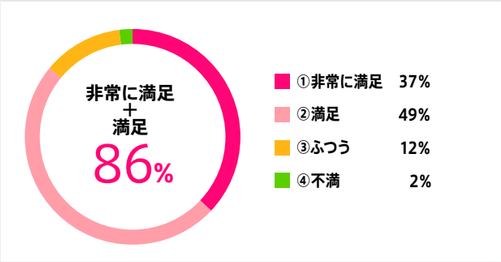


図1 プログラムの満足度

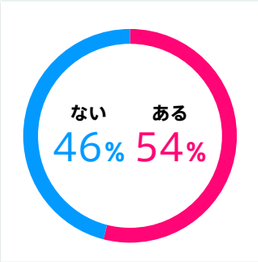


図2 大阪大学のイベントへの参加有無

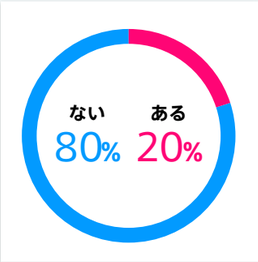


図3 サイエンスアゴラin大阪への参加有無

● ラボカフェ・スペシャル@大阪大学中之島センター
クリエイティブアイランド中之島、中之島パビリオンフェスティバル2025共同企画

【活動概要】「ラボカフェ」とは、大阪大学の教育研究活動の成果を社会へ伝えるアウトリーチ活動の一環として、哲学・アート・デザイン・サイエンス・鉄道など多様なテーマについて対話を重ねるプログラムである。学内の教職員（企画責任者＝カフェマスター）から持ち込み企画を募集し、シリーズ化する企画等もある。2009年から2023度までは、京阪電車なにわ橋駅のコミュニティースペース「アートエリアB1」を拠点に年間を通じて開催してきたが、2024年度からは、1つの場所に限らず、さまざまな場所での展開を目指している。

2024年度は、中之島センターの活用を踏まえて、2024年11月に実施したサイエンスアゴラin大阪「Playable Island―中之島で実装する創造的なアイディアの提案」でのワークショップをもとに企画を発展させることとなった。

「ラボカフェ・スペシャル」ではアフターミーティングとして、クリエイティブアイランド中之島やパビリオンフェスティバル中之島の企画の共有を含め、昨年秋のアイデアを改めて俯瞰したり、より密接な対話と懇親の機会を創出した。

【開催概要】

開 催 日 ： 2025年3月14日(金) 18:30～21:30
場　　所 ： 大阪大学中之島センター10階佐治敬三ホール
参加者数 ： 20名程度

【参加者の所属機関、及び、プログラム概要】

ノットコーポレーション、竹中工務店、一般社団法人 公縁クロス機構、かんこう、ダイビル、ロイヤルホテル、大阪公立大学医学部付属病院、関西電力、デコラティブモードナンバースリー（graf）、BLUESymphony
・全体概要および企画概要等の説明、参加者の自己紹介、グループワークショップ、各グループによる発表、意見交換
・カフェマスター＝企画責任者・総合司会：木ノ下智恵子（大阪大学 21 世紀懐徳堂准教授）

全体概要および企画概要等の説明

グループワークショップの様子①

グループワークショップの様子②

各グループによる発表

【成果と課題】

・なぜ、中之島において複数機関による共創事業(クリエイティブアイランド中之島、中之島パビリオンフェスティバル2025)を実施する必要があるのか。単なるイベントではなく持続可能なミッション（コンセプト）について対話を重ね検討する機会となった。
・参加者からは、親密な対話の機会の重要性とともに、中之島パビリオンフェスティバル2025での実現だけでなく、将来の地域や街の変化につながる対話の場の創出という点で、本プログラムの企図が実現し、その効果・成果が得られた。
・プログラムの開催日時がピンポイントで春季休暇中であったため、参加者は限られてしまったが、より深い議論の場を創出するという目的としては適切な規模であったとも言えるが、実施場所や時間などは検討の余地がある。
・2025年度は、大阪・関西万博の本番年となるため、ラボカフェの企画枠を有効に活用し、社学共創の充実と発展を目指すべく、各所との関係構築や情報共有を推進する。

●阪大ワニカフェ

【活動概要】 地域の幅広い住民を対象に、大阪大学のアウトリーチ活動の一環として、既存のサイエンスカフェの手法を発展させた「阪大ワニカフェ」を、2022年12月から始めた。ヨーロッパで始まったサイエンスカフェは、専門家と一般の人々が科学（自然科学だけでなく、人文・社会科学も含む）について気軽に語り合う場を作ろうという試みだ。カフェのような打ち解けた空間で実施することで、参加者が気軽に発言できる環境をつくること、そのもとで専門家と参加者のあいだで双方向的な対話が実現することが可能になっている。

その手法を本学独自の「ワニカフェ」として特化し、好評をいただいている。「ワニカフェ」の名前は、大阪大学の敷地で骨格が発見されたマチカネワニをモチーフにした公式マスコット「ワニ博士」を由来とする。

【開催概要】

会　　場 ： 箕面市立船場生涯学習センター
千里文化センター「コラボ」
江坂公園　PARK CAFE BRANCO

定　　員 ： 30人程度

日　　時 ： 休日の午後が多いが、平日の夜にも開催。今後も柔軟に開催する。

阪大ワニカフェ チラシ

【成果】

2024年度は、夜間にお酒も一緒に楽しめる「ワニバー」を含めて計10回実施。

医学部附属病院による「面白い巨塔編」シリーズのほか「番外編」「臨床哲学編」と多様なテーマ・講師で充実させてきた。関心の高い医療関係では、患者に直接接する医師らにとどまらず、臨床工学部、薬剤部、栄養マネジメント部など、裏で支える部門を連続で取り上げ、好評を得た。中にはそられの専門に関心のある高校生も参加して、熱心に質問していた。学外からは、ピースウィンズ・ジャパン「空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"」 プロジェクトリーダーの稲葉基高医師を招き、災害現場でのすさまじい医療活動、その葛藤などを語ってもらい、会場には感動と共感が広がった。寸劇を交えた「演劇で考えるACP（人生会議）」では、 グループに分かれての意見交換も行いながら、自分の人生をどう生き、どう終(しま)うか、延命治療に関する希望を家族で共有することなどを考えた。

ワニバーは2回開催。大阪・関西万博協会の職員を招いての裏話を含めた「ぶっちゃけトーク」と、ピエール＝イヴ・ドンゼ経済学研究科教授による「なぜスイスの企業は高い物が売れるのか」では、楽しい質疑に会場が沸いた。

【課題】

時には、募集早々に定員を超えて参加をお断りするケースも出ている。かといって人数が多すぎると、皆さんで語り合うという形式をとりにくい。その仕様を試行錯誤する。テーマや講師、「～編」をさらに多様にしていきたい。カフェ参加者からは、本学未来基金に寄付もいただいており、このご厚志も大切にしていく。

グループ討論も盛り込む

ざっくばらんに語り合うワニバー

●生涯学習講座（箕面市立船場生涯学習センター）

【活動概要】 箕面市立船場生涯学習センターは、大阪大学が指定管理者として管理・運営している施設である。趣味、サークル活動、会議・研修、講演会などの活動の場として、貸会議室、貸スタジオ及び屋外運動場を提供している。

また、本学教員および図書館職員が登壇する講座や、子どもを対象とした講座など、市民向けの自主企画講座を実施している。

【成果】

(1) 春の生涯学習講座　2024年5月(全3回)
・「たのしくうんどう！せんばスポチャレ☆」をテーマに、全3回の講座をみのおNEXTスポーツコミュニティパートナーズ協力のもと実施し、計41名の受講生が参加した。

(2) 夏の生涯学習講座　2024年8月(全3回)
・「めざせ！けん玉マスター☆」をテーマに、全3回の講座を実施し、計42名の受講生が参加した。

(3) 秋の生涯学習講座　2024年10月から11月(全4回)
・「世相を映すハンガリーの民俗舞踊」をテーマに、全3回の講座を実施し、延べ49名の受講生が参加した。
・「音楽スタジオを使ってみよう！ ～初心者のためのミキサー ・ アンプの使い方講座～」を実施し、7名の受講生が参加した。

(4) 冬の生涯学習講座　2025年1月から3月(全3回)
・「ほっこり薬膳ライフ～体を温めて冬も元気に～」を実施し、34名の受講生が参加した。
・「文化芸能劇場見学ツアー」を実施し、16名の受講生が参加した。

(5) 図書館講座（箕面市立船場図書館との共同実施）　2024年8月・2025年2月(全2回)
・「図書館活用法　～情報検索と図書館利用のコツ～」を実施し、10名の受講生が参加した。
・「図書館でわがまち探訪－『地域資料』を使ってみよう－」を実施し、13名の受講生が参加した。

(6) 通年の生涯学習講座　2024年6月から2025年3月(全10回)
・「現代演劇のゆくえ」をテーマに、全10回の講座を実施し、延べ212名の受講生が参加した。

生涯学習講座 チラシ

【課題】

2023年度末に箕面船場阪大前駅（北大阪急行線）が開業したことも影響し、2024年度の稼働率は昨年度に比べて高くなっているが、講座定員充足率を伸ばす余地がまだある。各種広報媒体にて講座を周知し、市民の関心が高い内容の講座を企画検討していきたい。

「音楽スタジオを使ってみよう！」の様子

「現代演劇のゆくえ」の様子

● 文化活動 (ハンダイラジオ/阪大万博/まちっと北摂)

ハンダイラジオ（みのおエフエム）

【活動概要】みのおエフエムでは10年以上、「まちのラジオ」で月1回、阪大の活動を紹介してきたが、2023年度から大学名を冠する番組「ハンダイラジオ」に衣替えして、第5日曜日の15～16時に放送している。21世紀懐徳堂の活動のほか、大阪・関西万博に出展する教授が出演したり、クラウドファンディングを取り上げたりして、多方面から本学のＰＲに貢献した。さらに、番組のアーカイブ動画を21世紀懐徳堂ウェブサイトに掲載し視聴者に常時楽しんでもらえている。

番組内で合奏・合唱を楽しむ
(左から)
猿倉教授、筑本教授、千葉名誉教授

【成果】出演したのは、**6月**＝「阪大でいっちゃんおもろい教授」として知られた千葉泉・人間科学研究科名誉教授の歌&トーク▽レーザー科学研究所の筑本知子教授と猿倉信彦教授のクラウドファンディング「東南アジアと共に育むグローバルリーダー」、**9月**＝石黒浩・基礎工学研究科教授の「万博パビリオンでのアンドロイドロボット展開など」▽樺敬人・医学研究科特任研究員のクラウドファンディング「腹部大動脈瘤」、**12月**＝安達宏昭・薬学研究科特任教授の「殺菌・除菌『MA-T』」▽大阪・関西万博学生部会「はまでいず」の活動、**3月**＝遠藤誠之・医学系研究科教授のクラウドファンディング「脊髄髄膜瘤の胎児手術」など。収録会場として人間科学研究科の教室での初開催、石黒研究室にて石黒教授そっくりのアンドロイドロボットとの同時出演と、ユニークな展開もできた。(本活動は2024年度末にて終了予定)

阪大万博（FM千里）

【活動概要】ＦＭ千里でも、2023年７月から番組出演するようになった。毎週金曜日15～16時の番組「寺谷一紀の千里の道は世界へ通ず」の第２週、前半25分間ほどで、21世紀懐徳堂が情報提供するという位置づけで「阪大万博」というコーナーが設けられている。2025年４月開幕の大阪・関西万博の会場で、大阪大学のさまざまな研究・活動を広く社会・世界にアピールしようと準備を整えているので、そのＰＲの場として活用されている。コーナーの最後には21世紀懐徳堂の多様なイベントの告知なども行っている。

番組パーソナリティーの寺谷一紀さん
アシスタントのみちごえゆうさん
スタジオで出演した
ローバースメンバー(左側の2人)

【成果】大阪・関西万博に関わる活動紹介では、世界の学生たちとつながろうと活動している大阪・関西万博学生部会「a-tune」の学生が中心となって出演。2024年12月に池田市民文化会館アゼリアホールで 開催したコンサート「e-Symphony for 2024～to Gather～」を事前告知したり、海外と中継しながらの合同演奏の実績を報告したりと、活動内容を広く広報したりすることができた。同じ学生部会で活動している「ローバース」の海ゴミアート教育プロジェクトや、福島県の復興支援を続けながら能登半島地震の被災地にもボランティアに行っている「はまでいず」の活動なども紹介できた。出演する学生たちの活動をさらに活性化させるモチベーションにつながっており、事前に台本を作ったり、本番で話したりすることで、プレゼン・広報の能力もはぐくまれている。番組最後に毎回、21世紀懐徳堂の活動紹介を行うことで、本学のアウトリーチ活動への市民からの理解、参加の促進を目指している。(本活動は2024年度末にて終了予定)

まちっと北摂

【活動概要】「まちっと」とは、サンケイリビング新聞社が運営する、地域の情報や住まう人のつながりでまちの暮らしを楽しく充実したものにする地域情報プラットフォームである。21世紀懐徳堂では、「まちっと」の北摂版である「まちっと北摂」にて2023年9月からスペシャリストとして投稿をスタートし、主に21世紀懐徳堂での活動やイベント情報などを発信している。

まちっと北摂投稿画面

【成果】2024年4月から2025年1月までで24件を投稿。合計PVは3,707を獲得した。また、投稿では21世紀懐徳堂ウェブサイトへのリンクを積極的に掲載し、2024年4月から2025年1月で160件の流入を確認した。北摂地域への21世紀懐徳堂の認知度向上とイベントの周知に貢献している。

【課題】一つの投稿を作成するのに時間がかかるため、繁忙期には投稿数がやや減少した。イベント主催部門にはテンプレートなどを活用し、原稿を作成いただくよう改善していきたい。

● 地域×学生プロジェクト

【活動概要】本プロジェクトは、地域住民や専門家、学生が分け隔てなく自由に対話する場を提供し、地域と大学を結びつけるハブとなることを目指している。2024年度はこれまでの経験を踏まえ、アドヴァンスト・セミナー科目「地域活動と対話」を新しく開講し、吹田市・豊中市・箕面市にそれぞれ活動範囲を広げて、中間支援や地域活動を担う団体等を訪問し、社会的課題やそれらの取り組み状況についての意見交換や対話を行った。また、しょうない演劇部のメンバーと協力して大阪大学会館21世紀懐徳堂スタジオで「ひとあそび演劇ワークショップ」を実施し、地域住民と学生が交流する機会を提供した。

【成果】

(1) アドヴァンスト・セミナー科目「地域活動と対話」を、2024年8月7日(水)・8日(木)・9日(金)の日程で開講し、中間支援や地域活動を行う団体等を訪問しながら、社会的課題やそれらの取り組み状況について意見交換や対話を行った。1日目(8月7日)は、箕面市立船場図書館、箕面市民ギャラリーチカノバ、みのお市民活動センターを訪問、2日目(8日8日)は豊中市市民公益活動センターの訪問後、2グループに分かれて4つの地域団体と意見交換、3日目(8月9日)は吹田市立市民公益活動センターを訪問し、地域の方々とともに当日のボランティア活動にも参画した。続いて一般社団法人いしばしコモンズの協力を得ながら、今回受け入れをいただいた関係者を交えながら大阪大学会館21世紀懐徳堂スタジオで受講学生8名の発表を行った(図1の写真)。
本プロジェクトの趣旨を踏まえて、受講学生が地域の関係者から話を聞く一方的なスタイルではなく、受講学生とともに地域の関係者も他の団体を訪問しながら対話を進める形式となり、各参加者が課題についての新しい視点や今後の取り組みに対する気づきを得ることができた。

(2) しょうない演劇部のメンバーと協力して「ひとあそび演劇ワークショップーこのちいきに住む変わった人達あつまれ」(図2のチラシ)を大阪大学会館21世紀懐徳堂スタジオで計3回実施し、2024年7月27日(土)は演劇部メンバー(小学生1名、大人5名)、2024年10月19日(土)は演劇部メンバー(小・中学生2名、大人5名)と2025年2月11日(火・祝)は演劇部メンバー(小・中学生３名、大人4名)が来訪し、当日参加した本学学生や教職員とともにアクティビティや即興の演劇づくりをとおして交流を行った。
このワークショップにおいて、地域の方々には大学施設や活動の一端に触れていただくとともに、学生に対しては地域に住む方々の取り組みに関心をもつきっかけを提供することができた。

【課題】

アドヴァンスト・セミナー科目「地域活動と対話」については、地域の多くの関係者の協力のうえで遂行することができた。受講学生に加えて関係者からも内容が充実していたとの評価をいただいたが、得られた成果の検討や受講後の学生のフォローを体系化するまでには至っていない。2025年度も継続して実施することから、関係者へのフィードバックを含めた今後のサイクルについては丁寧に検討する必要がある。また、ひとあそび演劇ワークショップは、大学側担当者の異動に伴い今年度でいったんクローズするが、中長期に渡って地域との関係性を構築する上でのノウハウや活動の蓄積を行っていきたい。

図1 「地域活動と対話」の授業風景

図2 ひとあそび演劇
ワークショップのチラシ

図3 「ひとあそび演劇ワークショップ」の様子

● リブランディング

【活動概要】21世紀懐徳堂では、2023年度のウェブサイトリニューアルに続き、組織のリブランディングを進めている。2024年度は、21世紀懐徳堂のロゴマークリニューアル、懐徳堂に縁のある人物のイラスト制作を行うことによって、学内における21世紀懐徳堂の存在意義を再定義するとともに、学外のステークホルダーに対する21世紀懐徳堂のイメージの普及を目指した。

▮ ロゴマークリニューアル

リニューアルの背景

懐徳堂の開設300周年にあたる2024年には、様々な記念イベント等が開催された。懐徳堂の志を受け継ぐ21世紀懐徳堂が、そのバトンを次の世代へとつないでいくという決意を新たにするため、リブランディングの一環としてロゴマークのリニューアルを行った。

リニューアルしたロゴマーク

デザインについて

「21」の数字は、革新・未来（次代）・新しい思考を表現している。文字部分に伝統・歴史・温故知新を感じさせるフォントを用いることで、革新と伝統の調和を目指したデザインとなっている。

▮ イラスト制作

懷徳堂に縁のある６人の人物のイラスト

様々な資料をもとに、懐徳堂に縁のある人物として、中井竹山・上田秋成・山片蟠桃・草間直方・中井履軒・富永仲基のイラストを制作した。それぞれの人物らしさが表現されるとともに、親しみやすさをも感じさせるようなイラストデザインを意識した。また、リニューアルしたロゴのピンクカラーに合わせた色調とした。

中井竹山

上田秋成

山片蟠桃

草間直方

中井履軒

富永仲基

「時空を超えた学びの場」をテーマとするイラスト

懐徳堂に縁のある人物が中央に座し、その周りには、中之島という地に集った学者や町人の姿がある。これらは懐徳堂の基礎をなす伝統的なモチーフである。他方、スマホを持って撮影する人やロボット、ドローンといった現代を象徴するモチーフも描かれている。「時空を超えた学びの場」が表現されるこのイラストのように、21 世紀懐徳堂は「知のネットワーク拠点」として、市民の方々や様々なステークホルダーと共に学びの場を創っていくことを目指している。

イラストには、大阪大学のマスコットキャラクターにもなっているマチカネワニや、大阪大学のシンボルマークであるイチョウがあしらわれるといった、遊び心も表現される。

第56回大阪大学公開講座のメインビジュアルにもなったイラスト

● デジタルマーケティング

【活動概要】21世紀懐徳堂では、学内のアウトリーチ活動の的確な支援を目指し、市民のニーズ把握に努めている。どのようなイベントに関心が集まっているのか、どのような経路で情報が得られているのか等、2023年度リニューアルしたウェブサイトを活用しながらデジタルマーケティングの取り組みを行っている。

▮ アクセス解析によるマーケティング

21世紀懐徳堂の活動に関心のあるユーザーが、どのような経路から情報を得ているのかについて調査を行っている。これまでの調査によって、21世紀懐徳堂のウェブサイトへの流入は、21世紀懐徳堂ウェブサイトをお気に入り登録している等、すでに21世紀懐徳堂の活動を知っているユーザーによるアクセスが多いことが明らかになっている。ただし、主催事業である大阪大学公開講座とサイエンスアゴラin大阪の開催時期を含む9～12月には、流入経路に次のような変化が見られた。

・大阪大学公開講座開始前の9月に、ウェブ広告による広報を実施した結果、21世紀懐徳堂ウェブサイトへの流入が増加した(図1のOrganic social値)。また、11月に開催のサイエンスアゴラin大阪についても、ウェブ広告配信期間中はウェブサイトへの流入が増加しており、広報効果が得られたと言える(図3のOrganic social値)。

・大阪大学公開講座の開催中である10～12月にかけては、すでに21世紀懐徳堂の活動を知っているユーザーのアクセスによる流入(図2・3・4のDirect値)、及び自然検索による流入(図2・3・4のOrganic search値)が比較的高い割合を占めている。

・10月と12月には21世紀懐徳堂のメールマガジンからの流入が増加している(図2・4のE-mail値)。今後も、主催事業の開催に関する広報を広く行っていくとともに、イベント開催期間以外にもユーザーに多くの情報を届けられるようなウェブサイト運用を目指していきたい。

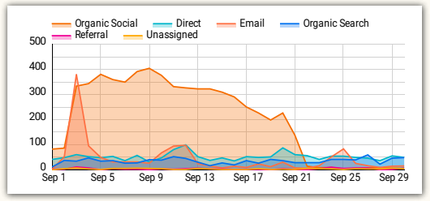


図1　9月の流入経路

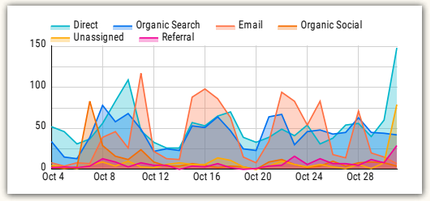


図2　10月の流入経路

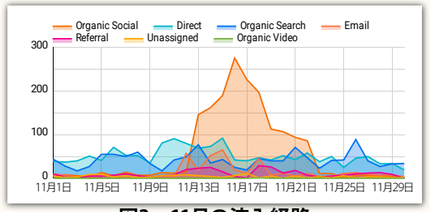


図3　11月の流入経路

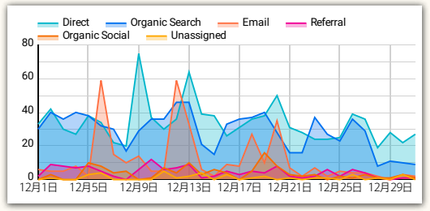


図4　12月の流入経路

▮ ユーザーのニーズ調査（リクエストボタン）

イベント情報ページでは、各イベントの詳細情報が掲載されるとともに、開催・受付期間であるかどうかが一目でわかるような仕様になっている(図5)。また、開催が終了したイベントについては、続けて情報を掲載するとともに、「再開催をリクエスト」というボタンを設置することによって、ユーザーからのリクエストを受け付けている(図6)。21世紀懐徳堂では、各イベントに対するリクエスト希望を集計することによって、ユーザーのニーズの拾い上げに努めている。

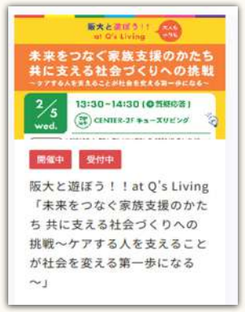


図5　開催中のイベント情報

図6　開催終了後のイベント情報

●広報実績

【活動概要】21世紀懐徳堂では、リニューアルしたウェブサイトや21世紀懐徳堂メールマガジンの他に、SNSでのイベント等の情報発信や近隣自治体の広報誌への情報提供、学内ディスプレイシステムであるO+PUSでの放映、プレスリリースなど様々な広報活動を行い、本学におけるアウトリーチ活動の認知度向上を目指している。

▮ SNS：X（旧：ツイッター）、Instagram

2023年1月よりXを、2024年2月からはInstagramを開始し、画像とともにイベント情報などの発信を行っている。

【成果と課題】

X、Instagramともにフォロワー数が2023年度と比較し2倍近くになっており、イベント情報などを地道に投稿してきた成果といえる。今後も、21世紀懐徳堂ウェブサイトのイベント情報へのリンクを付け、ウェブサイトへの流入も増やしていきたい。

21世紀懐徳堂X

21世紀懐徳堂Instagram

▮ SmartNews 広告への掲載

2024年度の新たな試みとして「大阪大学公開講座」と「サイエンスアゴラin大阪」の開催情報を、モバイルニュースアプリである「SmartNews」へ掲出した。

【成果と課題】

・大阪大学公開講座　広告期間：2024年8月19日～9月24日（申込フォームへの遷移数：28件）

広告期間	インプレッション数	リーチ数	クリック数	HP 誘導率
2024/8/19 ～ 9/2	38,992	21,499	567	63.0%
2024/9/3 ～ 9/23	638,087	251,972	5,553	84.7%

・サイエンスアゴラin大阪　広告期間：2024年11月13日～11月22日（申込フォームへの遷移数：6件）

広告期間	インプレッション数	リーチ数	クリック数	HP 誘導率
2024/11/13 ～ 11/22	232,524	118,434	1,992	49.9%

「大阪大学公開講座」では9月3日以降に広告掲出の頻度が高くなるよう運用を行った結果、リーチ数が約11倍、クリック数が約9倍に上昇した。2023年度「サイエンスアゴラin大阪」で実施した、Instagram・Facebook広告では、認知拡大としては効果があったものの予約フォームへの遷移に至らなかったが、SmartNews広告では、計34件の遷移があった。

「サイエンスアゴラin大阪」では広告エリアを広く設定し関西圏以外（名古屋・香川・岡山）へも配信したため申込フォームへの遷移に繋がりにくい結果となった。2025年度以降もより効果のある配信期間や配信エリアを検討していく必要がある。

▮ 近隣自治体広報媒体への掲載

豊中市「広報とよなか」
　・阪大ワニカフェ（複数回）

箕面市「広報紙もみじだより」
　・大阪大学公開講座（2024年8月号）
　・生涯学習講座（2024年4月号・7月号・9月号・12月号）

吹田市「市報すいた」
　・阪大ワニカフェ（複数回）

大学連携
第56回大阪大学公開講座
■10月1日(火)～12月14日(土)（全9講義）■■同大学中之島センター（大阪市）、同大学箕面キャンパス（アーカイブ配信での受講も可）■■同大学研究者 ■■各130人（申込順）■■各1600円、高校生以下無料。全講義受講の場合7700円 ■■特設サイト（QRコード）のイベント予約ページから ■■同大学共創推進部博物館・適塾記念センター等事務室公開講座担当☎◎6850-5339（月～金曜日午前9時～午後3時30分。祝・休日を除く）、文化国際室☎724・6769 FAX724・6010

箕面市「広報紙もみじだより」2024年8月号掲載の記事

【成果と課題】

2024年度も21世紀懐徳堂が主催するイベントにおいて、近隣自治体の広報誌に情報を掲載いただいた。スペースが限られる中、第56回大阪大学公開講座では二次元バーコードを掲載し、特設サイトへの流入を促した。広報誌への掲載は、数か月前に掲載依頼や原稿提出の必要があり、募集要項等の情報の確定を早急に進めることが課題である。

▮ O+PUS への掲載

・2024年7月27日開催「ひとあそび演劇ワークショップ-このちいきに住む変わった人達あつまれ」
・2024年10月1日～12月14日開催「第56回大阪大学公開講座」
・2024年10月19日開催「ひとあそび演劇ワークショップ-このちいきに住む変わった人達あつまれ」第2回
・2024年11月24日開催サイエンスアゴラin大阪「Playable Island―中之島で実装する創造的なアイディアの提案」
・2025年2月11日開催「ひとあそび演劇ワークショップ-このちいきに住む変わった人達あつまれ」第3回

▮ プレスリリース

・2024年11月24日開催／11月12日リリース　サイエンスアゴラin大阪「Playable Island―中之島で実装する創造的なアイディアの提案」

●アウトリーチ活動支援

【活動概要】研究者のアウトリーチ活動推進の一環として、21世紀懐徳堂が行っている「広報支援」、「21世紀懐徳堂スタジオ・楽屋の貸し出し」、「ラボカフェの開催」のうち、広報支援の内容は以下の通りである。
(1)各学部・研究科等が主催する一般の方を対象としたイベント情報の21世紀懐徳堂ウェブサイトへの掲載及びSNSへの投稿
(2)「21世紀懐徳堂メールマガジン」の配信 (3)キャンパス内や一部モノレール駅へのチラシ配架のサポート (4)ウェブサイトの活用

【広報支援】

対　　象 ： 学内外の社学共創に関する取り組み
申請方法 ： 支援依頼書を提出（21世紀懐徳堂ウェブサイト／マイハンダイからダウンロード可能）

(1) 21世紀懐徳堂ウェブサイトへのイベント情報の掲載…118件（2025年2月末時点）

【成果と課題】2024年度も21世紀懐徳堂ウェブサイトに多くのイベント情報を掲載した。「開催前・開催中・終了」や「申込不要・受付中・受付終了」等、開催や受付状況が視覚的に分かりやすいよう、アイコンで表示している。また、ウェブサイトのイベント情報に掲載したものは、XやInstagramでも投稿し、積極的に広報活動を行っている。2023年度に実装した、終了イベントへの「再開催リクエスト」機能の活用が進んでおり、2024年11月24日に開催した「サイエンスアゴラin大阪」に対し80件ものリクエストを受けた。今後もウェブサイト閲覧者のニーズ把握のために、さらなる活用を目指したい。

21世紀懐徳堂ウェブサイト イベント一覧

(2)「21世紀懐徳堂メールマガジン」の配信…82件、登録人数…約2,700名

【成果と課題】2024年度も多くのイベントを購読者へ届けることができた。一方で、前月と比較して配信数の振れ幅が大きい月に会員数が減少している傾向にあることが判明した。毎月の配信数の平均ラインを決めておくことで、会員離れを抑制していきたい。また、受信者のメール設定等の状況により、画像が表示されないケースや文章が一部しか表示されないケースがあることが分かった。そのため、年度途中より、文章の冒頭に「※文章がうまく表示されない方はこちらをご覧ください。」との記載を追加し、イベント情報へのリンクを設定した。メールマガジンに添付する画像には、21世紀懐徳堂ウェブサイトのイベント情報へのパラメーターを設定したURLを紐づけ、ウェブサイトへの流入も促している。

(3) キャンパス内や一部モノレール駅へのチラシ配架のサポート…29件

【成果】広報支援依頼のあった部門を中心に、従前の配架先である大阪大学会館や総合学術博物館、各キャンパス学生センター、図書館、医学部附属病院、歯学部附属病院、大阪モノレール千里中央駅・阪大病院前駅、千里ニュータウン情報館へイベントチラシを配架した。2024年3月に北大阪急行の新駅開業をきっかけに、新たに箕面船場阪大前駅を配架先に追加した。配架数も2023年度の実績より10件多い29件という結果となった。

(4) ウェブサイトの活用

【成果と課題】2024年は大阪大学の源流の一つである懐徳堂の300周年にあたる年であり、21世紀懐徳堂ウェブサイト上に特設サイトを制作し、大阪大学文学部・人文学研究科が主催する記念イベントの広報支援と記念コラムの掲載を行った。特設サイトや記念イベントのチラシには、21世紀懐徳堂が所有する懐徳堂に関連する人物のイラストを貸し出しするなど広報に貢献した。

懐徳堂300周年記念 特設サイト

懐徳堂300周年記念 シンポジウムチラシ

●21世紀懐徳堂スタジオの利用状況

【概要】21世紀懐徳堂は演劇をはじめとするパフォーマンスやトークイベントなどに学内関係者が利用可能なスタジオ(楽屋併設)を大阪大学会館1階に保有している。主催事業を行うほか、学部等が開催する社学連携事業や社学連携関連の授業などの場として提供している。

▮ 仕様

【21 世紀懐徳堂スタジオ】

面積　:165㎡
設備　:天井吊プロジェクター、スクリーン、ODINS無線LAN等

【楽屋】

面積　:83㎡
設備　:化粧台・鏡・テーブル・空・ホワイトボード等

▮ 利用状況と課題

【利用状況】今年度も様々な社学連携関連事業およびイベントの活動拠点として利用された。2024年10月27日(日)の第50回衆議院議員総選挙及び第26回最高裁判所裁判官国民審査の「期日前投票会場」として、10月22日(火)・23日(水)の2日間、市民・学生が投票に訪れ、政治意識向上に貢献した。その他、部局主催イベント、劇団六風館や氷2劇場や現代芸術を考える会による演劇、大阪大学軽音学部SWINGによる音楽イベント、落語研究部によるイベント及びいちょう祭やまちかね祭でのベリーダンス等、学生によるイベントが多数開催された。年間を通し、多岐に渡るイベント会場として利用され、計2,097名が使用した(2025年1月末時点)。21世紀懐徳堂スタジオは大阪大学の社会資源として大いに活用されている。また、利用者の利便性向上とメンテナンスとして、音響ミキサーと調光卓の交換を行った。

【課題】音響ミキサーと調光卓の交換をしたものの、その他の機器や備品の老朽化が見受けられる。また、エアコンに不具合があり、スタジオ内部の室温が設定温度になるまでには盛夏・厳冬には1時間以上を要するため、早めに電源を入れておく必要が出てきている。利用者からは、「ゴミが残っていた」「音響のコードが足りなかった」との意見があり、各利用者の後片付けや整理整頓を徹底するように呼び掛ける必要がある。

▮ スタジオ利用風景

スタジオ利用時の様子①

スタジオ利用時の様子②

スタジオ利用時の様子③

大阪大学21世紀懐徳堂　活動報告書2024

2025年3月発行

編集・発行　大阪大学21世紀懐徳堂
編集責任者　上林梓・瀬島梨奈
制作　株式会社 I am.

〒560-0043 豊中市待兼山町1番13号　大阪大学会館4階
TEL：06-6850-6443
office@21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp

21世紀懐徳堂
Kaitokudo for the 21st Century